壇の岡

１１月　１日（金）　第６８号
発行責任者
鮫川中学校長　角田敏文

子育て四訓

「子育て四訓」とは、乳児期・幼児期・少年期・青年期それぞれの発達段階で、親がどの程度の距離感で接するのが理想的か示したものです。

中学校の時期はとりわけ「少年は手を離せ、目を離すな」の時期でしょう。中学生は家族、友人、地域など、他者とのかかわりのなかで社会性が育つ時期です。ここでしっかり手を離して活動範囲を広げてやる必要があります。一方、親に反抗したり、心が不安定になったりがちな時期です。親や友人に「こちらを向いてほしい」というメッセージを送っているのかもしれません。それは成長の過程であり、親とはしっかりと子どもに向き合い、共に成長することを心がける時期なのでしょう。もちろんこの「四訓」の言葉だけで言い尽くされ、うまくいくものではありません。しかし、これからのヒントとなるものでしょう。

『子育て四訓』
一．乳児はしっかり肌を離すな
二．幼児は肌を離せ、手を離すな
三．少年は手を離せ、目を離すな
四．青年は目を離せ、心を離すな

乳児はしっかり肌を離すな＝基本的信頼感
生まれて１年間は、ほとんど受身の状態。お世話をしてもらう中で、しっかり抱かれることによって、赤ちゃんは「守られている」「かわいがられている」と無意識のうちに感じ、信頼し安心します。それが、愛情や信頼、情緒安定、他人を思いやる心など、人間形成の基盤となります。

幼児は肌を離せ、手を離すな＝自立性・自主性
幼児は乳離れをするが、一気に離すのではなく、常に親がそばにいることで、「心配しなくてもいいよ」という安心感を与えることが大切です。自立に目覚める幼児期は、安全な保護者から社会に向いて一歩を踏み出す時期と言えます。

少年は手を離せ、目を離すな＝勤勉性
学童期は、友だちとの付き合いによって社会性が育つ時期なので、ここではしっかりと手を離し、活動範囲を広げてやらないといけません。でも、いろんな危険があるので、目を離してはいけません。この時期は遠くから見守り、子供が何かで声をあげると助けてあげましょう。

青年は目を離せ、心を離すな＝子離れ・独立
青年期にまでなると、完全に自立していくために自分なりの生きがい・進路を歩んでいくときであるが、気持ちの上では心を離してはいけないということです。いずれにしても、子育ての最終的な責任は親にあるという基本を忘れてはいけません。

アメリカインディアンの教えとも、山口県の元教員である緒方甫さんが広めた教えとも言われています。

「アメリカインディアンの教え」加藤諦三著

批判ばかり受けて育った子は 非難ばかりします。
敵意に満ちたなかで育った子は 誰とでも戦います。
ひやかしを受けて育った子は はにかみ屋になります。
ねたみを受けて育った子 は いつも悪いことをしているような気持ちになります。
心が寛大な人のなかで育った子は がまん強くなります。
子どもたちはこうして生き方を学びます。
励ましを受けて育った子 は 自信を持ちます。
ほめられるなかで育った子は いつも感謝することを知ります。
公明正大ななかで育った子は 正義心を持ちます。
思いやりのあるなかで育った子は 信仰心を持ちます。
人に認めてもらえるなかで育った子は 自分を大事にします。
仲間の愛のなかで育った子は 世界に愛をみつけます。

教育目標

学ぶ心　よく学び自己を高める生徒
美しい心　心豊かで思いやりがある生徒
強い心　心身を鍛えたくましい生徒

週の行事予定

8	7	6	5	4
金	木	水	火	月
三者面談・漢字検定	三者面談	三者面談・NO部活動デー	三者面談	振替休日

実践していますか

13日（水）に定期テストが行われます。すでに範囲表を配布し、計画表も作成してあります。今までの定期テストの反省を生かしながら取り組んでいると思います。

自己採点→分析(反省)→計画
実　践　(テスト)→作戦→練習

すべて高校受験を見据えての取り組みです。早い段階から習慣化された**学習習慣・心構えは**、必ず高校受験時に役に立ち、さらに**自信につながります。**

お子さんの取り組みを確認の上、ご家庭でも一声かけて下さい。

こちらから各学年だより等がスマートフォンからもご覧できます。